

仕事の後にコンビニに立ち寄る。家にたどり着くまで、雑誌や本がずらっと並んでいるところを見てほっとしたくなる。本屋があればそちらに行くけれど、たいていの店は閉まっている時間だし、帰り道の途中にあるコンビニの雑誌ラックが気分を切り替えるのに手軽で、つい立ち寄ってしまうのだ。

コンビニの雑誌ラックだから文庫本や小説の類いはほとんどなく、目をひくのはレジャー情報誌やファッション雑誌だ。週末はフォトジェニックなスポットに出かけよう——インスタ映え必至——最近はそのような言葉があちこちのページに踊る。美しい写真が撮れる観光地、写真映えするスイーツなどが紹介され、とにかくどの雑誌もカラフルだったり、華やかさが意識されている。

ファッション雑誌を手にとり取って、ぱらぱらとページをめくっていると星占いの記事が目にとまった。女性誌には大概占いのページがある。そこに「五月は星図上で七年ぶりに天王星が重要な動きを見せるので、運勢に注意」というような内容が書かれていた。西洋占星術というのは主に水星・金星・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星の八天体と月、太陽にローマやギリシャ神話に由来する意味を付け与え、その位置や軌道によって占う。そのときに地球を中心に据え、黄道や星の見かけの動きを模式的に表した星図を作成する。

当たると八卦当たらずも八卦、その信憑性はここでは置いておくとして——ちなみに天王星は大気にメタンが含まれているため、望遠鏡が撮影した画像では青く映っていることが多い。青といっても、地球のような紺青ではなく水色だったり、明るい青緑色だったりする。薄く縞状の雲も浮いているので、まるで猫目石のようだ。天王星は太陽から離れた場所で公転しているため、その公転周期は地球が一年というのに比べると、八十四年ととても長い。天王星の更に外側を公転する海王星の大気にもメタンが含まれているので、こちらも真っ青だ。マーブル模様のような大赤斑をもつ木星、塵や氷でできた環をもつ土星は有名だが、天王星や海王星もその二つの星に劣らず神秘的な姿をしている。理科で宇宙のことをはじめて習う中学生に、教科書に載っている太陽系の八惑星の写真を見せると、地球から遠く隔たったこれらの星の美しい姿に目を丸くする。もし「フォトジェニックな惑星」「インスタ映えする惑星」をひとつ挙げるなら、私なら木星、土星、天王星、海王星のうちのどれかを選ぶ。木星と土星の見た目はもう十分有名だから、個人的には澄んだ水色が魅力的な天王星を推す。

週末はフォトジェニックなスポットに出かけよう——雑誌に書かれていた言葉を思い出す。

いくらフォトジェニックでも、週末に出かけるスポットとしては天王星は遠すぎる。地球からの距離は約三十億キロ。それともSF小説のように手軽に宇宙を旅する、そんな未来がくることもあるだろうか。——ふと深夜コンビニで思った。